

不登校新聞

発行 特定非営利活動法人 全国不登校新聞社

■「不登校新聞」とは
1998年に日本で初めて創刊した不登校の情報・交流紙。不登校を原点としながら、広く子どもに関わる問題や社会のあり方について考えたい、という市民らで創刊した。創刊前年の97年9月1日前後に発生した中学生の自殺も創刊のきっかけになった。編集方針は創刊以来「当事者視点」。

■東京編集局 〒114-0021 北区岸町1-9-19
TEL 03-5963-5526
FAX 03-5963-5527
E-mail tokyo@futoko.org

■名古屋支局 〒464-0036 名古屋千種区本山町2-33-1
TEL 052-759-2375
FAX 052-763-7371
E-mail nagoya@futoko.org

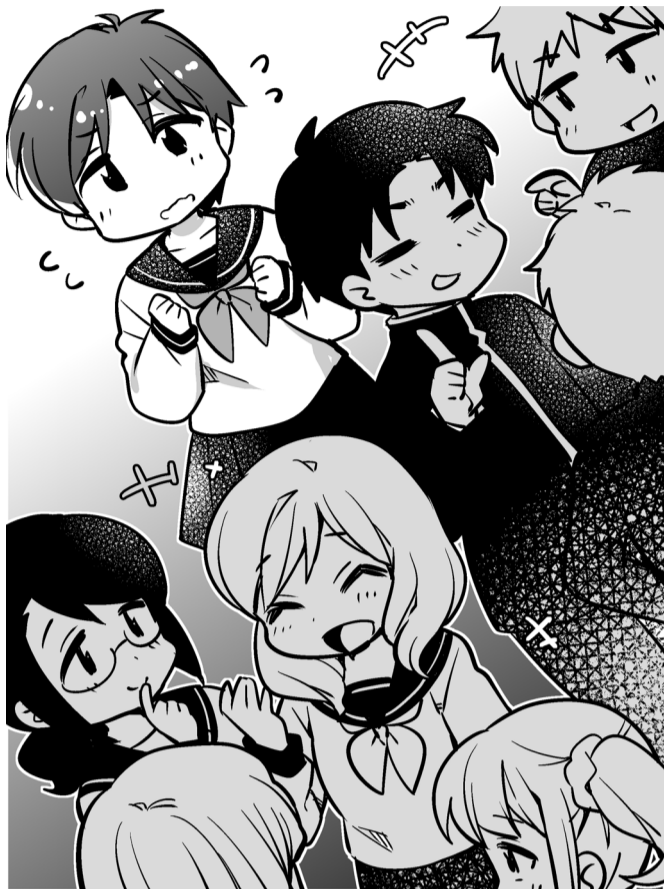
■大阪通信局
TEL 050-5883-0462
E-mail osaka_c@futoko.org

毎月1日・15日発行
購読料・月820円
◎カード決済(毎月契約)
◎銀行自動振込(半年契約)
【郵便振込先】
加入者番号 00100-6-22077
加入者名 全国不登校新聞社

www.futoko.org

不登校が倍増する「中1ギャップ」 “楽しかった学校”が変わった4月

相良まことさん(15歳・仮名)



文科省によると、小学校6年生と中学校1年生の不登校数は2・6倍の差がある(1万人↓2万6000人)。中学校に入った途端、不登校が増えることを「中1ギャップ」とも言うが、今回は実際に中学校1年生の4月から学校生活に戸惑い、不登校になった相良まことさん(15歳・女性/仮名)にお話をうかがった。

——どんな学校生活を送っていましたか？

小学校はわりと楽しかったです。私は男子の友だちが多くて、マンガやゲームの話をよくしていました。マーチングバンドで全国大会に出場して賞をもらったり、学芸会で役を演じたのもいい思い出です。

しかし、中学になると環境がガラッと変わりました。教室では男女がわかれ

てしまつて、男子は男子と、女子は女子としかしゃべらなくなりました。男子としゃべるとつきあっている」と噂されるので、話せなかつたんです。でも私は女子が話す流行のブランドなどにまったく興味を持ってなくて、いじられたりもしました。そのうち男子とも女子とも話することができなくなりました。いつも教室のすみで、ひとりで絵を描いていました。

——学校へ行かなくなつてみてどうでしたか？

「学校に行っていない私が外を出歩くなんて許されないと家にもついていません。勉強しなきゃ」という強迫観念もつねにあったので、なかなかに手につかない。24時間、後ろめたさでいっぱいでした。

親は、私が学校を休むことを許してくれました。それは本当にありがたかつたと思つています。自分で自分を責めているときなども「もっと気を抜いていいんだよ」と何度も言ってくれました。

また、勉強についても「わずかな時間でも毎日コツコツ」と思つて生活していましたが、結局それができずに自分を責める、ということを知り返してしまいました。

「学校へ行かなくなつたんだよ」といふことが、私にとって悩んだ言葉でもありました。本当に気を抜いていいの、か、そんなふうに思つたら、さもないよ、とつい許されなくなつて、ずつと何かに追われているような毎日でした。とくに夜になるとつらい気持ちになることが多かつたんです。友だちもいないし、将来も不安で、これからどうなっちゃうんだろ、と、恐怖に心が支配されるようで、夜通し泣いている時期もありました。

——そんな私を救ってくれたのは、テレビの特撮番組でした。「○○レンジャー」と

観念もつねにあったので、なかなかに手につかない。24時間、後ろめたさでいっぱいでした。

親は、私が学校を休むことを許してくれました。それは本当にありがたかつたと思つています。自分で自分を責めているときなども「もっと気を抜いていいんだよ」と何度も言ってくれました。

“気を抜いていい” それが難しい

しかし「気を抜いていいんだよ」といふことが、私にとって悩んだ言葉でもありました。本当に気を抜いていいの、か、そんなふうに思つたら、さもないよ、とつい許されなくなつて、ずつと何かに追われているような毎日でした。とくに夜になるとつらい気持ちになることが多かつたんです。友だちもいないし、将来も不安で、これからどうなっちゃうんだろ、と、恐怖に心が支配されるようで、夜通し泣いている時期もありました。

——ありがとうございました。(聞き手・酒井伸哉、茂手木涼岳)

「学校復帰が前提」ではなく、広く「自立支援」に不登校政策が変わりつつあるのは、教育機会確保法の影響が大きいと思つた。また古い考え方のまま「登校していないから卒業は難しい」と言つた校長に「休むことも必要」と法律が認めているのに罰的に卒業させないのは法の精神に反しますよね」と国は、自立支援が大事と言つています。

子ども本人は高校へ行きたいと言っているのに中学卒業を認めないのは自立を助けることになりませんか、と話を卒業が認められたケースがごく最近もあつた。教育機会確保法には、民間との連携が謳われているため、公民連携がやりやすくなつたり、きっかけになつている。適応指導教室をフリースクールに委託したり、学校の先生方の研修にフリースクールのスタッフが講師として呼ばれたりもしている。親の会やフリースクールが文科省を呼び、不登校政策について講演してもらつたり、地域の不登校に関する官民双方が参加の連絡協議会をつくり活動し始めたところもめずらしくない。親の会に公費支援が出ています。フリースクール運営者が教育委員に就任することになった市もある。今、日本の各地で学校中心だった価値観がゆさぶられ、変化の一步が始まつている。冬の時代の雪解けとしたいものだ。(お)

父母と教師を結ぶ雑誌 **4月号** 2018 No.806

子どものしあわせ

日本子どもを守る会 編

巻頭リポート **私を育ててくれた人たち**

善きサマリア人のたとえ **遠藤まめたさん**

特集 **子どもと生きる人々に聞く**

乳幼児期を育む保育園はどうあるべきか **新保庄三**
今、できることを。 **中山瑞穂**

(放談) 小学校の先生大いに語る **阿比留久美**
加来速人・福岡奈緒子・山野あゆみ

〈オキナワのいま13〉南城市長選と名護市長選 **長堂登志子**

●読みもの **いきものさわぎ 新連載**

四月 **ゲンゴロウの源一郎(上)** **岩瀬ともき**

● **みんな悩んで親になる** **春野すみれ**

● **子どもの文化を生み出す「居場所」**

● **もっと知ろう! 年齢のルール**

● **南都義典**

● **春野すみれ**

本体 550円+税

本の泉社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-6 TEL.03-5800-8494 FAX.03-5800-5353
http://www.honnoizumi.co.jp/ E-mail:mail@honnoizumi.co.jp

ジェンダーの視点で、平和・人権・環境のニュースをお届けします。

最近の主な記事:
1面インタビュー:
新年号「女が作る未来」湯川れい子さんインタビュー(1月1日号)
早稲田文学「女性号」責任編集者 川上未映子さん(1月15日号)
沖縄への偏見をおおる放送を許さない 川名真理さん(2月5日号)
映画「一陽来復」の監督 伊美亜さん(2月15日号)
選択的夫婦別姓の実現を目指す 打越さく良さん(2月25日号)
生活保護の切り下げは、社会の「地盤沈下」(1月25日号)
「ニュース女子」問題から見るテレビ業界(2月5日号)
ICAN ベアトリス・フィンさん来日講演(2月15日号)
「日韓合意」真の謝罪、加害責任とは?(2月25日号)

ふえみん
ふえみん婦人民主新聞

タブロイド判8ページ
毎月5・15・25日発行 3・8・12月の25日号は休刊
購読料(送料込み) 年間9000円 半年4500円
見本紙をご請求ください http://www.jca.apc.org/femin/

ウェブショップ
http://femima.com/
始めませんか? 気持ちいい生活
Femin Marché ふえみんマルシェ

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-18-301
事務局 03(3402)3244・編集部 03(3402)3238 FAX 03(3401)3453 メール femin@jca.apc.org